

週刊センターニュース No.213



第 213 号 (2008 年 6 月 30 日) 毎週月曜日発行
発行: 金沢大学 大学教育開発・支援センター
URL: http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou_rche/index.htm

共同学習会のご案内

第 189 回

日時: 7月10日(木) 16:30~18:00

会場: 角間キャンパス総合教育1号館南棟2階大会議室

発表者: 末本 哲雄 (大学教育開発・支援センター)

テーマ: 教員 FD アンケートの分析 - 第1回 -

第 190 回

日時: 7月17日(木) 16:30~18:00

会場: 角間キャンパス総合教育1号館南棟2階大会議室

発表者: 渡辺 達雄 (大学教育開発・支援センター)

テーマ: 「学士課程教育の構築に向けて(審議のまとめ)」を読む (仮)

大学教育学会第 30 回大会参加報告

さる6月7日から8日にかけて、大学教育学会第30回大会(目白大学)が開催された。大会プログラム中、参加したものの一つであるラウンドテーブル「FDネットワークの可能性を探る」について触れたい。

周知のように、FD実施義務化を受け、個々の大学において大学教育改善に向けた組織的活動のグレードアップを図られているが、一方で地域ごとのネットワークの構築も相当に進んでいる(例えば広島大高等教育研究開発センターWEBのリンク集では21の大学間・大学地域連携組織が参照できる(http://rihe.hiroshima-u.ac.jp/html/link_na.html#6)。比較的早期に立ち上がったものに、山形(大学)を中心に東北地方の大学間連携組織としての「FDネットワーク樹氷」、また最近設立されたばかりであるが大規模な連携組織(参加校100数十校)として「関西地区FD連絡協議会」(センターニュース207号参照)また全国の大学教育センターに所属の若手FD担当で結成する「若手 Faculty developer ネットワーク」が挙げられる。報告・議論は、ネットワーク組織を作ることのメリットそれを成立させる条件 問題点と克服方法 そして 個別大学のニーズ・特性との調整 の4点に焦点をあてて進められた。

山形県内の大学・短大による「地域ネットワークFD樹氷」の設立と発展を支えてきた小田隆治氏(山形大高等教育研究企画センター)は、山形大学の多様な分野を網羅した教養教育のFDを基盤に、容易に他機関に方法論等を移転できたことや、ネットワークが小規模で機動力があったこと、山形大学の規模(学部数)とその先進性からネットワークの中核として機能でき、力が分散しなかったことが、ネットワークの発展に貢献したと考えている。こうしたプロセスを経て、当初の山形大学がリー

ドする形から、現在は（緩やかにネットワークを維持しながら）各機関が特性に合わせ自律する形に移行しつつあるということである。また、各参加校が当事者として、そのネットワークの価値を相対的に判断した上で、多様な大学間連携の規模とスタイルがあってよいのでは述べておられた。

松下佳代氏（京都大高等教育研究開発推進センター）からは、同センターが文部科学省の特別教育研究経費を元に今年から「大学教員教育研修のためのモデル拠点形成」を進め、「相互研修型FD」を理念に、教員と学生、教員間、そして組織間にまで拡大することを目的に、学内・地域・全国・国際の4つのレベルでネットワークを形成しようとしていることが報告された。具体的には、学内レベルで部局のFD支援やブレFD、地域レベルで先述の関西地区FD連絡協議会による共同企画、問題別連携によるFD支援、全国レベルで大学教育研究フォーラム（1994年～）はもちろん、各種FD関連ネットワーク間の緩やかな連携に向け今年発足した「FDネットワーク代表者会議」やオンラインによる「大学教育ネットワーク」（<http://www.highedu.kyoto-u.ac.jp/edunet/index.html>）そして国際レベルでは、類似の理念をもつ海外高等教育機関・scholarship of teaching & learning 拠点校と連携し、日本に合ったFDモデル開発と世界への発信が挙げられている。そこでの課題の一つとして、同僚関係の教員がFD実施主体（相互研修）となる同僚モデルと並列して、教員の相互研修を教育専門職（Faculty developer、instructional designer など）が支える専門家モデルとの関係、またその専門職のあり方について検討する必要性を述べていたが、重要な部分であると思われる。

FDネットワーク中四国および若手 Faculty developer ネットワークの取り組みの中心人物の一人である佐藤浩章氏（愛媛大教育学生支援機構教育企画室）からは、その経験からネットワーク運営のコツとして、中心となる人物の確保（3名程度） 開催場所の確保（アクセスの良さ） 予算の確保 構成メンバーのニーズの一致（何を目的にするネットワークなのかを明確にする） 大学トップからの理解 情報交換の強化（MLやWEBの活用）が挙げられ、Win-Win の関係を目指すことが大切であると述べている。

報告後の質疑応答・議論においては、1）FDネットワークを組むことによる学内への波及効果、2）ネットワークの拠点校として必要な条件、3）地域の特性を考慮しながら加盟校の特性を踏まえた運営のやり方（方向性） 4）基盤の弱いネットワーク加盟校が依存したままでなく、実力をつけて自律させていく方策（自分のところに合わせてブラッシュアップさせていく力）5）FD評価方法に対しFDネットワークが果たすべき役割（あるいはそれが可能であるか）の部分について、活発に意見交換がなされたが、そこで通底していると思われたのは、構成メンバーが目的を何におき、どうしていきたいのか、がもっとも重要で、ビジョン勝負という点であった。

以上の様々な取組事例は、本学のみならず、大学コンソーシアム石川のFD活動、さらには北陸地区のFD活動のあり方を考えるさいに有益な材料を提供しており、今後の動向に注目するとともに、情報収集を図っていききたいと思う。（文責 評価システム研究部門 渡辺 達雄）

「アカンサスFD」について

アカンサスポータル内に、「アカンサスFD」を掲載中です。【会議室】機能には、FDに関わる各種報道資料や学会報告資料を掲載し、議論するさいの材料として活用していただくことを意図しており、また【解説】機能においては、教育方法・内容改善を含め広く教育改革に関する学内外のセミナー・シンポジウムの情報を提供する「FDカレンダー」～（本年度12月まで参照できます。随時情報を更新しています）、ICTを活用した実践報告（要旨）が参照できる「ICTを活用したFDのために」コーナー等を開設しています。是非ご活用下さい。